

第60回宇宙理学委員会 議事録

日時：平成30（2018）年2月15日（月）11:00～19:00

（昼休憩 13:17～14:10）

場所：宇宙科学研究所 新研究管理棟2階会議室A(1257)

出席者：

理学委員：山田（委員長），渡邊（副委員長），篠原（幹事），清水（幹事），山崎（幹事），井口，一本，今村(TV参加)，上野，金田，河合（TV参加），倉本，郷田(TV参加)，齋藤，塩谷，高橋，田代，田中，中川，橋本，羽澄，三好，山岸，吉田，渡部

工学委員会：永田（工学委員長），船木(工学幹事)

宇宙研：常田所長，國中副所長，倉崎執行役，藤本総主幹，満田プログラムディレクタ，森田研究基盤・技術統括，佐々木科学推進部長

説明者：高島，西山，荒井（Destiny+），阿部琢美(観測ロケット専門委員会)，川勝(MMX)，山崎敦(ひさき)，津田(はやぶさ2)，前島(XARM)，三保(宇宙科学プログラムオフィス)，久保田(国際宇宙探査専門委員会委員長)

事務局：科学推進部 青柳計画マネージャ，今村，奈良岡，和木，中野，松井，柳澤，斎藤，早川

0. 所長挨拶

所長挨拶として、ISASに関する様々な状況や課題について説明がなされた。

常田：ISASホームページの所長コーナーに、理学委員会での所長挨拶も入れるので、活用してほしい。

1. 宇宙科学に関する最近の動き(報告)

佐々木科学推進部長より、資料1に基づき報告がなされた。また、投影資料を用いて、予算要求に対する査定結果、また不足分への対応状況の説明があった。

1) グランドピクチャ案

藤本研究総主幹より、グランドピクチャドラフト(資料1-1)に基づき説明がなされた。

藤本：中期計画をまとめていく上で、たたき台は宇宙研執行部で作成した。理工学委員会からコミュニティの意見を吸い上げたい。

山田：理学委員会として、現在の工程表の内容を充実させ、実現性のあるものとして主張することと、長期的には、工程表をどのように改訂・発展させてゆくかとの両面が大事で、そのどこにバランスさせるかが重要。

2) 宇宙科学予算について

藤本研究総主幹から、投影資料を用いて予算に関する背景および対応方針について説明がなされた。工程表維持の方針を堅持し、不足財源対応として基盤的経費の一部を新規事業に振り分ける。理学委員会の小規模計画、フェーズA1、公募研究(戦略的開発研究や搭載機器開発研究)、大気球や観測ロケットを全て実施できないため、どう考えるかについて打診があった。

議論が行われ、3/12に臨時の理工学委員会を開催し、どこに重点を置くかの議論を行うことにした。

常田：私見だが、これだけのことが起きたことについて、理工委員会がstatementを出すかどうかも議論としてあっても良く、検討してほしい。

12:55

2. 国際宇宙探査委員会（資料5-1）

久保田国際宇宙探査専門委員会委員長より、資料5-1の報告があった。

3. 宇宙環境利用専門委員会（資料5-2）

橋本宇宙環境利用専門委員会委員より、資料5-2の報告があった。

4. Destiny+理学ミッションフォローアップ（資料3）

山田：理工学委員会がDestiny+をISASに推薦、ISASで次のステップに進む過程で一部改訂されたミッション計画が理学委員会として理学目的価値が担保されているか、計画が予定通り進められるかを確認して、意見があれば計画にフィードバックすることは、理学委員会の重要な役割である。

千葉工大荒井(Destiny+理学取りまとめ担当)が資料3に基づき説明がなされた。

5. 前回議事録確認

昼休み(13:17-14:10)：

山岸委員によるセミナー「これまでわかった生命の起源」

14:10

6. 宇宙工学委員会報告(資料4-1)

永田工学委員会委員長より、資料4-1に基づき報告がなされた。

7. 大気球専門委員会（資料5-3）

吉田大気球専門委員会幹事より、資料5-3の報告がなされた。

8. 20年委員会（資料6）

今村20年委員会委員長より資料6について説明が行われ、委員からのアドバイスを受けた。

9. あかつき終了審査（資料7） 塩谷

塩谷科学分科会委員長より、資料7に基づき科学評価結果の説明が行われた。

本審査で、あかつきの運用延長が認められた。

10. 公募型小型の公募状況について（資料8）

三保PO室長より、資料8に基づき報告があった。

11. 観測ロケット専門委員会（資料5-4）

阿部観測ロケット専門委員会委員(羽生観測ロケット実験グループ長代理)より資料5-4に基づき報告があった。SS-520-3の進捗状況については、齋藤委員より報告がなされた。

12. WG審査（資料9-1）

中川WG審査委員会委員長より、3年を経過したWGの審査結果（資料9-1）について報告がなされた。また、WG/RG定義改訂(資料9-2)の提案が行われ、承認された。

休憩

16:15

13. ミッションライフサイクルに応じた支援（資料10）

山田委員長より、資料10に基づき説明が行われ、審議を行った。来年度のWG見守りについては、公募型小型提案で次に進めなかったWGに対して、提案のやり方に沿って試みる。次回の理学委員会にWGに出す具体的な依頼内容を提示する。

14. 委員会ミッションと議論（資料11）

渡邊副委員長より、資料11について説明が行われた。また金田委員からも論点の提起について説明があった。それに基づいて、意見交換を行った。

15. 委員交代

高橋委員は所外委員になる。藤本元委員は研究総主幹就任に伴い委員でなくなった。補充は次回に提案したい。

16. メンバ申請

2名を承認した。

17. プロジェクト報告

17.1. 全体

満田PDより、プロジェクト全体の報告(資料14_00_01)がなされた。

あらせは定常運用終了及びミッション延長審査を実施する。

17.2. はやぶさ2

津田PMより、資料14_03に基づき報告がなされた。

17.3. ひので

清水PMより、資料14_04に基づき報告がなされた。

17.4. あらせ

篠原PMより、資料14_06に基づき報告がなされた。

17.5. ひさき

山崎PMより、資料14_05に基づき報告がなされた。

17.6. MMX

川勝チーム長より、資料14_07に基づき報告がなされた。

17.7. XARM

前島チーム長より、資料14_08に基づき報告がなされた。大学からプロジェクトへの参加や大学共同利用のあり方に関する問題について討議がなされた。

山田：理学委員会ミッションあり方、ライフサイクル支援、大学共同利用のあり方は、根っこで結びついているという指摘であるので、理学委員会としても共有して、今後も継続的にやりたい。

19:00